

香取市の商業的視点からみた 観光事業の課題

Q 全国発酵食品サミットの総括と香取市の今後に結びつく展望は。

A 発酵に関する様々な学びの講座や体験イベントのほか、発酵食品等を紹介する物産展等を実施し、想定を上回る2万8千人の入込客数がありました。今後は、多くの自治体や発酵関連事業者とのネットワークを活かしつつ、発酵のまちづくりを市民と協働で推進するため、香取市産の発酵食品等の知名度向上や商品開発等の事業を展開していきます。

Q 重伝建地区で店を出したいが家賃が高いと云われる現状に市の対策は。

A 家賃補助に関して、「空き店舗対策事業補助金」があります。

Q あやめパークの指定管理者に運営上どのように期待しているか。

A 花菖蒲やハスの品質管理を含めた維持管理及び栽培育成の着実な実施や地域との連携、自主計画事業の実施に努め施設利用促進を図るなど、入園者数の増加や満足度を向上させる積極的な取り組みを期待しています。

香取市の農業振興計画と 人口減少問題・空き家対策は

Q 地域計画策定の進捗状況は。

A 令和5年度当初に農業委員会と連携し、市域を25地域に分け、策定の協議を開始しました。その後、20地域に集約し、全地域で地域計画案がまとまりました。令和6年10月には、農業委員会、千葉県農地中間管理機構、かとり農業協同組合、関係土地改良区から意見聴取した結果を踏まえ、最終計画案を示す説明会を地域ごとに実施中で、全ての地域で令和7年3月末までの計画策定を目指しています。

Q 目標地図作成の協議内容は。

A 協議の場において、現状の農地の集約状況や耕作者を示した大きな地図を広げ、地域農業者等の参加者に確認いただき、まずは、現状を把握し、課題や今後の方向性を協議しています。

Q 農業の担い手対策・労働力対策は。

A 地域計画では、「地域における農業の将来の在り方」、「農業の将来の在り方」に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関



いのうとしお
伊能 敏雄 議員

意見 園内でゆっくり過ごせる施設の設置と当初の考えである四季折々の植物を楽しめる園内構想にすべき。それが入場者の増加に繋がる。また、民間事業者へ経営を任せる方向も検討すべき。

ゼロカーボンシティ宣言

Q 市民向け補助事業のほか、どのような取り組みがあるか。

A 香取市太陽光発電事業等の取り組みや施設照明のLED化等の施設・設備面でも脱炭素化を推進しています。

Q 新たに計画している一般廃棄物処理施設の二酸化炭素排出対策を検討しているか。

A 香取広域市町村圏事務組合では、新たに建設を予定している一般廃棄物処理施設の基本計画を策定する中で、排熱利用の発電等の対策について検討することとなります。



うちやま かつみ
内山 勝己 議員

する目標」、「農業者及び区域内の関係者が目標を達成するためとるべき措置」の大きく3項目を定めました。

Q 農地の基盤整備・排水清整備は。

A 地域の要望や意向に沿った取り組みを進めています。

Q 令和6年産米の現状と今後の見通しは。

A 令和6年産の主食用米の作付けは、令和5年産と比べ、約453ha増加し、約5134haと適正生産量を上回っています。一方、飼料用米やホールクロップサイレージ用稲等の転作物は、令和5年産と比べ、約458ha減少し、約1653haとなっています。今後は、主食用米の作付面積が増加すると予想されます。

Q 飼料用米の生産者に、香取市として追加支援をお願いしたい。JAかとりから提出された要望書、飼料用米生産者支援について、市長の見解は。

A 農業を支える稲作農家の現状を踏まえ検討します。

15年の契約が切れる 水の郷さわらの改修事業

Q 過去15年間の事業評価と現在の課題は。

A 「水の郷さわら」の来場者数は、平成24年度以降は当初想定を上回り毎年100万人を超える来場者があります。物販施設の利用者数は当初想定の1.5倍となる成果をあげています。一方、飲食施設の利用者数は想定を下回るほか、休日の駐車場不足等が課題となっています。

Q 課題から受注者に求める提案内容は。

A 次期事業では、駐車場の増設ほか、川の駅側にある物販施設を道の駅側に移転して売り場を一元化します。また、川の駅側には眺望も楽しめる飲食施設を配置するなど、施設のリニューアルを行います。

意見 現在のフードコートは無くなるが、利用者には評価されていなかった。新規飲食ブースも、業者のレベル次第では利用者増は望めない。敷地面積に限りある場所なので、中途半端なものを増やさず、ゆったりと風景を楽しめる構想も取り入れて欲しい。

Q 令和7年度から多面的機能支払交付金の事業主体となりえる農業法人・土地改良区の数や対象要件は。

A 詳細な要件や対象数は把握できていません。現時点の情報では、農業法人は、地域計画の中でその地域の担い手として位置付けられている農業法人であること等、土地改良区は、水土里ビジョンを策定した土地改良区であること等が要件となっています。

Q 香取市の空き家の実態は。

A 令和6年9月に公表された令和5年度住宅・土地統計調査によると香取市の空き家件数は、3650戸で、5年前の2260戸から1390戸増加し、1年あたり278戸の空き家が発生していることとなります。

Q 香取市の空き家対策の分野で、移住・定住の促進や地域振興策に繋がる取り組みは。

A 空き家の利活用を図る取り組みで、空き家バンク制度等を運用しています。地域振興策での利活用は、香取市が支援し、空き家であった建物をカフェやクラフトビール等を提供する店舗、結婚披露宴が可能なレストランとして活用している事例等があります。